

競技注意事項

1. 選手・監督について

(1) 服装

選手の服装はテニスウェアであること。トレーナー、Tシャツ、ウォームアップウェア(上下)等の着用を禁じる。テニス用のセーター、カーディガン、ベストの着用は差し支えない。ただし、天候に配慮してレフェリー(専門部)が特に必要と認めた場合に限り、ジャージ、トレーナー、ウォームアップウェア(上下)の着用が許される。

(2) 校名入りマーク

選手は校名入りマーク(**ハガキ大 校名札**)を腰の見やすい位置につけなければならない。

(3) 靴

選手の靴はテニスシューズであること。

(4) コーチング

団体戦の競技中、ゲーム終了のエンドチェンジの間に限り、選手はベンチにいる監督・外部コーチ・選手のコーチングを受けることができる。ただし、タイブレーク中のエンドチェンジは除く。その他のいかなる場面においても、**選手は競技中に一切のコーチングを受けてはならない。**

この条項は「テニス規則30. コーチング」に基づいて、厳格に解釈されなければならない。違反した選手(監督、コーチ、チーム)に対しては、アンパイア(主審)またはレフェリー(専門部)によってコード・バイオレーションが宣せられ、ペナルティが科される。すなわち、1回目は警告、2回目は失点、3回目はそのゲームを失い、4回目は失格の措置である。(「トーナメント諸規則 3-Q. ポイント・ペナルティ制度」に基づく)

(5) 連続的プレー

ポイント間の時間を20秒と規定する。(選手は一つのインプレーが終わった瞬間から20秒以内に次のプレーを始めなければならない。)また、奇数ゲーム終了後のエンドチェンジの時間を90秒と規定する。**(この時、選手は60秒でベンチを離れ、次のプレーのために移動をし、90秒以内に次のプレーを始めなければならない。)**これらの時間を不注意で超過してしまった選手に対しては、タイム・バイオレーションが適用され、ペナルティが科されることがある。すなわち、1回目は警告、2回目以降は失点の措置である。(「トーナメント諸規則 3-Q. ポイント・ペナルティ制度」に基づく)

(6) 提訴(アンパイアへの異議の申し立てなど)

選手・監督は、試合中の事実問題(イン・アウト・フォールト・ノットアップ・レットなど)に関してアンパイア(主審)が下した判定に対し、一切提訴することはできない。判定後、アンパイアの「レッツ・プレイ(Let's Play)」の指示が出たら、選手は20秒以内にプレーを再開しなければならない。これに従わない者にはコード・バイオレーションが宣せられ、ペナルティが科される。(「トーナメント諸規則 20. 決定および提訴」及び「トーナメント諸規則 3-Q. ポイント・ペナルティ制度」に基づく)

ただし、ルール解釈上の問題や、相手の監督・選手または応援観客の目に余るプレーを妨害するような応援については、レフェリー(専門部)に提訴して裁定を求めることができる。

(7) 個人戦でのベンチ及びコーチング

個人戦で、監督はベンチに入ることはできない。また、コート外からのコーチングやそれに類する行為をしてはならない。

(8) アピール

選手・監督は、声や態度によってアウト・フォールト・レット・ノットアップ(2バウンド)などのアピールをしてはならない。**指を空に向けてアウト・フォールトをアピールする仕草も、審判のいる試合では厳に慎まなければならない。**

(9) 団体戦でのベンチ

団体戦で、登録された監督・外部コーチは、ベンチに入ることができる(複数面展開においても、ベンチに入れるのは1名のみ)。また、監督・外部コーチの入っていないベンチには、登録選手が入ることができる(各コート1名まで)。

なお、ベンチコーチのプレー中の移動や、ベンチから他のコートへの応援・コーチング等は厳に慎むこと。

2. 試合について

(1) 時間厳守

試合の開始時刻やコートの変更もあるので、選手は大会本部の連絡に十分注意を払わなければならない。試合がコールされてから5分以内に所定の場所(試合コート)に現れない場合、**その選手・チームは失格となる。**

(2) 試合前の練習

試合前の練習は、サーブのみ(各サイド2球ずつ)とする。

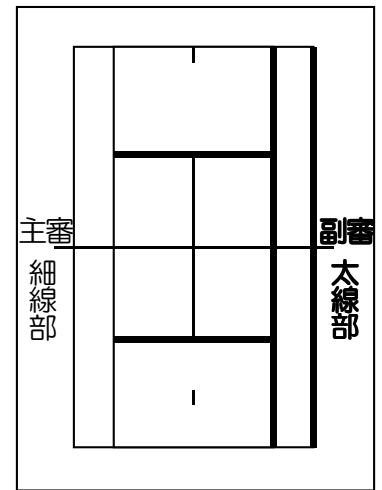
3. 審判について

(1) 敗者審判

審判は、原則として前の試合の敗者(個人戦では**負けた選手本人**)が行う。試合後、敗者は同じコートで待機すること。

(2) 主審と副審の分担

主審と副審の分担は、右の図の通りである。それぞれの区分を、責任を持ってコールすること。ただし、それぞれの区分が選手の陰になるなどして、ジャッジできなかったときは、両審判が協議してコールする。また、**副審も大きな声で「アウト」「フォールト」をコールしなければならない。****(要注意)**



※太線部が、副審がジャッジするライン

(3) 主審

主審のコールやカウントのアナウンスは大きな声で明瞭に行うこと。

(4) 審判の心構え

「公正」で「責任ある態度」を貫き、自信を持って務めること。また、**いかなるコールも選手や監督からの申し立てによって翻してはならない。****(要注意)**

(5) 審判のコールとハンドシグナル

両審判は、両選手・ベンチ・応援に聴こえる様、大きな声でコール・アナウンスしなければならない。また、副審は低い姿勢でボールに集中、「アウト」「フォールト」の場合は先に大きな声でコールし、その後ハンドシグナルをもって確定する。

4. 高体連札幌支部ローカル・ルール

(1) ボールマーク (コート上に落ちたボールの跡) の調査 (確認)

いかなるサーフェスのコートにおいても、選手・監督は審判にボールマークの調査を要請することはできない。また、審判は選手・監督の要請によってボールマークの調査を行ってはならない。

(2) レット

レットは、インプレー中に**審判(主審及び副審)**が競技に支障をきたすような事実があると判断して「レット」をコールした時に成立する。ただし、**ファーストサーブがフォールトになりセカンドサーブを打つまでの間に、他のコートからのボールがプレーの妨げになって審判がレットをコールした場合、サーバーはセカンドサーブから始めなければならない。**

(3) 試合中のけが

試合中の事故によるセルフリートメント(自己処置)は、1箇所につき1回限り許される。**ただし、これには「けいれん」も含まれ、**専門部がそれを認め、処置の開始を宣言してから3分以内に終了しなければならない。

5. その他 (注意事項)

(1) 選手変更は、病気・怪我等の**正当な理由**のある場合に限り、学校長名の文書で申し出ることが出来る。(突発の場合はその限りではない)その申し出については、専門部で協議の上決定する。**変更の届け出は、個人の部1回戦を開始する日の朝の顧問打ち合わせまで**とし、それ以後の申し出は、いかなる理由があっても認めない。

(2) 個人戦において、第1ゲーム終了後のエンドの交替の際、ベンチに座って休憩をとることはできない。また、タイブレイクのエンドチェンジも、ベンチに座って休憩をとることはできない。

(3) ガットマークは禁止する。

(4) **雨天の場合も会場に集合**して、大会本部の指示を待つこと。

(5) スコアボードは、選手(学校)番号の若い方を左側または上部に、または赤で表示すること。

(6) 団体戦のオーダー用紙は、正確に丁寧に記入して本部に提出し、副票を試合開始前の挨拶の時に、両校の監督または主将が交換する。

(7) **インプレー中の声や拍手による応援は禁止する。**また、アウトオブプレーの際の応援も節度と良識を持って行わなければならない。

(8) 個人戦シングルス試合に出場する選手は、ボールパーソンと敗者審判の関係上必ず2名以上で会場に来ること。止むを得ず1名だけで来る場合は、**事前にテニス専門部に連絡すること。**

(9) 貴重品やラケット等の管理に十分注意すること。

(10) ピアスやネックレス等の装飾品を着用してのプレーを禁止する。

(平成 25 年 5 月 一部改訂)
(平成 27 年 4 月 一部修正)
(平成 27 年 8 月 一部修正・追加)
(平成 30 年 4 月 一部修正)